

# 週刊朝日

1/20号  
2006年  
300year



ロッキード事件  
30年後の真実  
がん総合力の「いい病院」



# 盗撮現場の実態

盗み撮りされた自分の裸体が、いつのまにかビデオ店の店頭に並んでいる。そんな悪夢のような出来事が、現実には横行しているのだ。さらには、こうした盗撮映像をもとに脅迫や振り込め詐欺も起り、問題は深刻化するばかり。盗撮天国ニッポンの現状を事件ジャーナリストの黒木昭雄氏が告発する。

くつろぎきつた表情で、周囲と会話する美女。安全であるべきはずの入浴施設が、いつのまにか盗み撮りされている。

この映像は、2年前、「タレントの加藤あい似の盗撮映像」としてDVDやネットを介して流出したものだ。この映像をもとに、一部男性誌などが扇情的な記事を書き立てた。

私は卑劣な盗撮行為の実態を暴くため、これまで全国の盗撮現場を特定し、あまりにも無防備な各施設に注意を促してきた。

今回は、「加藤あい似」の女性の盗撮映像を、私立探偵「平松総合調査事務所」代表の平松直哉氏とともに改めて詳しく調べてみた。

「あれ、うちなんです」とあっさり認め、続けた。

「映像が出回った当時は、町じゅう大騒ぎになりました。対策として何をすればいいのかと、みんなで何度も話し合っただけでしたが、名案はありませんでした。」

しかし、我々は人の裸を扱う仕事である以上、事実をなかつたことにはできません。事実を認めた上で、可能な限りの方策を練ろうということになったんです」

こうした温泉施設などが自ら盗撮現場であることを潔く認めたのは、めずらしい。

というのも、全国の盗撮現場を取材していくと、当事者たちの責任感があまりにも希薄といわざるを得ないケースに、少なからず突き当たってきたからだ。

「盗撮関西女風呂」というタイトルのビデオの現場特定の取材は、そんな体験の一つだった。

狭い視界の映像に温泉の脱衣場の様子が延々と続く。「関西女風呂」の舞台となつたのは、日本三大温泉の一つ、和歌山県白浜町が経営する「白良湯」と「牟婁の湯」である。

このビデオに映る脱衣場内の洗面台、ドア、壁紙、木造屋根の骨組みが「白良湯」のそれと一致し、「お客様へ」と書かれたパネルなどが「牟婁の湯」のそれと一致したのだ。

05年春、この事実を白浜町役場に伝えると、観光課長は事実を認めた上で、防犯対策をとると約束した。だが、先の平松氏によれば、現在でも「見た目には変わっていない」のだという。

さらにひどいのは、和歌山市内の日帰り入浴施設だ。この施設の幹部に盗撮されていることを伝え、どのような対策をとっているのかを取材しようとしたところ、幹部は、まるで他人事のようにこう言い放った。

「これは『ヤラセ』です。うちは場所を利用されただ

温泉、公衆トイレ、更衣室…で



# あの美人タレ 野放し

## 恐喝、ビデオ販売などの二次被害も続出



「あなたは警視庁出身なんですね。じゃあ、警視庁に告発するんですか？ うちはいっこうに構いませんがね。対策？ そんなもの、あなたに説明する必要はないでしょう」

### プロの手口は ますます巧妙化

盗撮被害は、温泉ばかりではない。ホテルなどの宿泊施設も盗撮犯の「仕事場」となる。



「そればかりではない。後日、和歌山県警OBで、この施設の運営会社の「総務部渉外担当理事」と名乗る人物から、携帯電話に突然、連絡が入った。

「あなたに警視庁出身なんですね。じゃあ、警視庁に告発するんですか？ うちはいっこうに構いませんがね。対策？ そんなもの、あなたに説明する必要はないでしょう」

玄関にあるパネルで問題の画像に映る部屋と酷似した部屋を見つけ、手続きを済ませて中に入る。部屋に

あるピンクの掛け布団のロゴマークは、画像に映っているものと完全に一致した。私の取材に、このホテルの責任者と名乗る女性は、こう答えた。

「ウチで撮られたビデオが出回っていることは知っています。でも、部屋を点検してもカメラは出てこなかった。今後、掛け布団のロゴマークは外します」

お客を盗撮から守るよりも、盗撮現場が特定されなければいい、とでも言いたいようだ。

一方、盗撮犯の手口は巧妙になるばかりだ。

ある盗撮ビデオ制作会社の関係者はこう明かす。

「風呂場のノゾキものが出回りだした15年前は、隠しカメラを据え付ける単純なものが主流でした。でも、

これではいいカットが撮れないし、電池やテープを頻繁に交換しなければならぬ。そこで、「身内」のAV女優やアルバイト感覚の女

の子を使って盗撮をさせるようになったのです」

女性らは、ベストカットの研究に余念がない。盗撮を経験した30代の女性はこう話す。

「女友達から、絶対にバレない、いい仕事があると言われて盗撮を始めた。最初は友達に教わりながら、モニターを見て自宅の部屋で練習しました。相手の顔が映ってないとポツにされるし、体の隅々まで撮るのは難しいんです。コツは体で覚えるしかないですね」

「実践」では、シャンプーなどの容器にカメラを仕込み、カゴに入れて持ち運ぶ（左上の写真）。自分の顔が鏡に映らないよう注意しながら脱衣場を徘徊し、「獲物」をとらえていくという。報酬は2時間撮りテープ1本で2万〜3万円程度。出来栄えによって買い取り価格はさらに高くなるという。

「10本くらいたまったら宅



物議をかもした「加藤あい似」映像（上）と、盗撮カメラが仕掛けられたシャンプーセット



# 黒木昭雄氏らが特定した全国の盗撮現場

タイトル	第一現場	第二現場	第三現場	第四現場	第五現場
盗撮●●風呂	和歌山A温泉	和歌山B湯	和歌山C湯		
●●の大露天風呂	和歌山D温泉				
乙女の●●	和歌山E	和歌山C湯	和歌山E	大阪スバA	
●●●たちの入浴	和歌山E	和歌山C湯	和歌山A温泉		
夢●●	和歌山F湯	和歌山A温泉	和歌山A温泉		
乙女たち●●●●	大阪B湯	大阪C湯	大阪D温泉		
女湯●●●●	和歌山A温泉				
女子大生たちの●●●●	和歌山E	和歌山C湯			
女子プール●●●●	大阪スバE				
●●女風呂	白浜町・白良湯	白浜町・牟婁の湯			
人妻●●●●	和歌山F湯				
●●露天	草津町・西の河原大露天風呂				
露天風呂●●●●	草津町・西の河原大露天風呂				
●●●●露出	大阪スバE				
露天入浴●●●●	北海道Aホテル				
温泉女風呂●●●●	和歌山A温泉	和歌山C湯			
露天女風呂●●●●	白浜町・白良湯	白浜町・牟婁の湯			
女湯●●●●編	和歌山A温泉				
●●●●は女	和歌山C湯	大阪F湯			
人妻●●●●	大阪G湯				
潜望●●風呂	北海道Aホテル				
裸体●●●●	大阪H湯				
温泉●●●●	和歌山F湯				
●●露天風呂	北海道Aホテル				
●●女風呂●●●●	大阪スバE				
●●●●脱衣所	大阪スバE				
●●●●女風呂	和歌山A温泉	和歌山E	和歌山G	和歌山C湯	
●●●●夏合宿	白浜町・白良湯	白浜町・牟婁の湯			
●●●●女風呂	大阪H湯				
●●●●物語	大阪F湯	大阪H湯	大阪I湯	和歌山C湯	和歌山A温泉
●●●●銭湯	大阪I湯				
潜入●●●●裸●●●●	和歌山E				
●●●●に舞う●●●●	和歌山E				
●●●●天使たち	大阪スバA				
●●●●濡れ場	大阪C湯				
女湯●●●●	白浜町・白良湯	白浜町・牟婁の湯			
●●●●盗撮●●●●覗き	和歌山D温泉				
●●●●ラブホテル盗撮	東京都内チェーンホテルA				
潜入●●●●女風呂	韓国A湯				

(注)表中の●●●●は、編集部で加えたものです。

協力:平松総合調査事務所

配便で業者に送るんだけど、1回の振込額は50万円ってとこかな(先の女性) さらに大胆な手口もある。「盗撮モノ」と呼ばれるアダルトビデオを長年、制作し続けてきた30代のある男性が驚くべき実態を語った。「『トイレ盗撮』などでは、

カメラを複数仕掛けて、いろんな角度から女性が用を足している姿をとらえます。その際、一般の公衆便所では、都合のいい位置にカメラを仕掛けるのは難しいんです。だから海岸の駐車場などに自前の公衆トイレそのものを設置してしまうん

です」 一見、何の変哲もない簡易トイレが盗撮スタジオになっていくというのだ。その総工費は800万円。そこまでしてメリットがあるのか。男性が続ける。「いえいえ、安いもんですよ。夏場だけでも何千万円

もの利益が出るんですから。ここで撮った4、5時間のマスターテープから「ウンコ編」「タンポン編」など、60タイトルくらい作ることができるとです」

こうした実態が、なぜ、野放しにされているのか。現状では、盗撮行為そのものを取り締まる法律は存在しない。自民党では、「盗撮防止法案」も了承されたが、国会には提出されていない。捜査当局の摘発には、各都道府県の迷惑防止条例か軽犯罪法が適用されるのだが、罰則は「1年以下の懲役または100万円以下の罰金」「3万円以下の罰金」などでしかない。しかも、条例の中に盗撮を罰する規定がある自治体は、全国で8都府県というありさまだ。

盗撮グループは、チームを組んで「盗撮軍団」を組織しているが、彼らは摘発された際の「言い逃れ」も心得ている。実際に盗撮に手を染めたという30代のフリーターの

女性がこう明かす。「盗撮がバレて、相手の女と殴りあいになったことがあるの。でも、そのときパケられたのは、女にけがをさせたっていう『傷害罪』だった。盗撮の件は、『ノゾキ趣味がある彼氏に無理やりやらされた』って言ったら、お咎めなしだった」 それならば、犯罪行為によって作られた盗撮ビデオの販売は取り締まれないのだろうか。残念ながら、答えは「取り締まられていない」のだそうだ。

先の男性が言う。「メーカーはどこも下請け業者を複数抱えています。メーカーから制作費を受け取った下請けは、盗撮の実行犯から買い取ったテープをメーカーに渡します。メーカーはそのテープにタイトルをつけ、自社ブランドとして販売するのです」 メーカーが警察の捜索を受けたとしても、「下請け、撮影者が『ヤラセ』で作ったというから買い取った」と言えば、それ以上追及で



きなくなるといふ。

暗澹たる現実だが、意外にもお隣の国、韓国で、私は思いを新たにしたい。

きっかけは11月初旬、平松氏から受けた一本の電話だった。

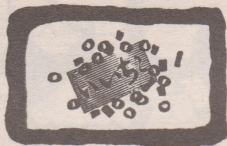
「韓国で撮影された盗撮ビデオの現場を突き止めた」私は早速、ソウルに飛んだ。

取材に同行した女性探偵、取材協力者の韓国人女性らに問題のビデオに映った画像を見てもらい、平松氏があらかじめ絞り込んでいた「汗蒸幕」（韓国式サウナ）を回っていった。

「ここに間違いありません」

北風が吹く街角で、鍋を手に待っていると、4時を少しまわった頃、W老人はやって来た。

W老人は「まい」と評判の豆腐屋さん。自転車の荷台の木箱から、木綿豆腐を一丁、ていねいに取り出すと、ニコリ笑って「まいど」とひと言。また「とーふー」とラッパのいい音色を響かせて去っていった。



W老人の豆腐を、さて、どう食おうかと思案する。ふつうなら湯豆腐だが、部屋は暖かいし、お湯割りを飲むつもりなので、ここは一丁、季節はずれの冷奴でいこう。

生姜をおろし、ネギと大葉を刻み、鯉節を用意する。薬味をのせる前に、まずはそのままひと口。…大豆の少しあおひょうな匂いと、ほのかな甘みを感じる。

ネギと大葉を敷き、生姜をのせ、鯉節を散らして、醤油をかける。

箸で大きめに取って口に入れてみる。ひんやり冷たいのだが、豆腐のうまさもまた一段と強まって口中にあふれる。そこに熱めて濃いめのお湯割りをゆっくり送ってやると…これはもう、たまらないうまさだ。

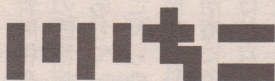
冷奴とお湯割りを代り番こに楽しみながら、ふと、W老人のことを思った。

いつだったか「いい音ですな」とラッパを褒めると、「おれのラッパは、昔、名人といわれたMという人が作ったもので、とーふーの音がきれいにしるんだ」と自慢していたっけ。

今頃は仕事を終えて、こんな風一杯やっているのだろうか。

やさしい味わいと澄んだ酔い。日曜日の夕暮れの小さな憂鬱が、ゆっくりほぐれていくようだ。

焦耐のよさをさらに磨き込んだ、透明な味わい



醸造元 三和酒類株式会社  
大分県宇佐市山本、虚空蔵寺丁  
TEL0978-32-1431 http://www.lichiko.co.jp

飲酒は二十歳を過ぎてから。

ん」

ソウル市内の汗蒸幕を何軒か巡っていると、住宅街のある汗蒸幕で協力者の女性にこりと笑って戻ってきた。特定に立ち会った女性探偵が言う。

「女性専用通路の奥にサウナ室がありました。その右側に小さな浴槽があり、左手にはミネラル冷温水ディスプレイがあるのですが、周囲の壁、天井、調度品が画像とそっくりです」

我々はこの事実を汗蒸幕の女性オーナー(50)に伝えた。彼女は突然の取材にはじめこそ警戒感をあらわにしたものの、すぐにこう話

した。

「思ってもいなかったことが起こり、驚いています。しっかりと対応をとらなければ、問題になるところでした。いままで慣習どおりにやってきましたが、これからは気をつけなければならぬと思います」

韓国の婦人団体「性暴力相談所」のリ・ミギョン氏は我々の取材にこう語った。「技術が進歩するにつれて、新しい犯罪が生まれるのはどこの国でも同じことです。これは女性だけの問題ではなく、社会全体の問題だと思っています。さっそくこの件は警察当局に相談します」

卑劣な盗撮行為と闘うには、まず事実を認めることだ。そして、草津温泉のように、行動に移すことだと思

う。被害に遭った著名人、

私は数多くの盗撮現場の取材を重ねてきたが、こう

した言葉は、残念ながら日本ではほとんど聞くことができなかった。

報道によると、04年の盗撮行為での検挙数は1892件。この数には建造物侵入で処理された数字が含まれておらず、検挙は氷山の一角でしかない。「おたくを盗撮した。〇万円振り込め」と脅す手口も全国で横行している。

「どんな対策をとっても、完全ということはありません。だからこそ私たちは事実を認め、常に完璧な安全を目指すのです」

草津観光公社の小林氏はこう話す。

いや全女性が、率先して防犯キャンペーンを張るなど、断固として闘っていく必要があるのだ。

冒頭の草津温泉では、度重なる盗撮被害に対して、目隠し用の木塀を作り、防犯カメラを設置してスピーカーで注意を促すアナウンスを流す一方、職員や警備会社による巡回を頻繁に行うなどの施策をとってきた。

草津観光公社の小林氏はこう話す。

「どんな対策をとっても、完全ということはありません。だからこそ私たちは事実を認め、常に完璧な安全を目指すのです」